

梅雨をふき飛ばす演技

山武消防ポンプ操法大会



横芝敬愛高校運動場で、第7回山武消防ポンプ操法大会が開かれ、地元横芝からは、自動車ポンプの部に横芝本部が、小型ポンプの部に木戸台がそれぞれ町代表として出場し、各市町村の見守る中、堂々と演技を披露しました。(7/12)

歌壇

掛川 友代
土くれを運びるし蟻が庭隅に
小さき塔を築きあげるき
北田 ふじ
八十路にて逝きし師の墓詣でむと
集ひし吾らも古稀に近づく
向後 泰治
煩惱のたち騒ぐ日は心洗ひたく
筆をにぎりてひたすら書けり
斉藤 要
思ふことなし得ぬままに歳過ぎぬ
弱き性持つ我を貶しむ

齊藤 幸子
朝もやの街に毛がにを売る老婆
二の腕までも袖たくしあげ
佐瀬 初音
七夕の行事も絶えぬ亡き父は
年毎真菰に馬つくりくれき
那須 清江
限られし詩型に託さむ思ひのみ
心はやれど表はしがたし
萩原 信一
夕立に揚水機場に飛び込めば
野良猫二匹ふてぶと居り
吉岡 信子
梅雨晴れの間に布団を干しおかむ
嫁は薬を飲、つつ勤む

秋葉 とく
高台の宿より眺む夕映えの
光りの海をヨットは走る
宇井 勇
軒下のセラニウムに夏の蝶ひと
つ羽やすめるて涼しき日なり
海保 きみ
つぎつぎに姉等も逝きていつしか
に気付けば吾も七十路を越ゆ
鈴木 サツ
梅雨明けの植田に光る朝の露
泌みいるばかり輝きあたり
（選者）齊藤つね子
笈より滴り落つる水の輪に
綾なし反す夕つ光りは

あっぱれ少年剣士

横芝町剣友会少年部



千葉県少年剣道練成大会が日本武道館勝浦研修センターで開かれ、町剣友会少年部は並い強豪を連破し、高学年の部で見事に優勝、低学年の部でも準優勝するという輝かしい成績を収めました。(7/7)

優勝喜ぶ子ども達と石毛指導者

私のひとこと



田舎の良さが見直され、ふるさと志向が高まる中で、ローカル色豊かな郷土芸能がもてはやされています。

私たちの中台区でも、永い歴史を誇る風祭が

例年九月一日（二十日）に、大宮神社の境内で開かれます。

この祭礼は、農作物が風水害にあわないようにと、五穀豊稔を願って行われる伝統行事で、起源は江戸中期頃からと言われています。

この祭礼のメインは梯子獅子ですが、時代の変遷で時間にゆとりがなくなつたせいも、二十年近くも途絶えていましたが、諸先輩の指導と若者達の努力で四年前に復活しました。

二十人のおはやしに合せて

梯子獅子の醍醐味を

鈴木繁雄（中台区長）

獅子（三十代の若者二名）がよじ登るのは、樹令百数十年という大銀杏に掛けた七間半（十四メートル）もある大梯子です。獅子はまるで軽業師のようにこの急な斜面を登りつめ、頂上近くで逆立ちをしたり、花吹雪を吹いたりしての演技をみせてくれます。

この勇壮な芸の評判は、たちまちにして人から人へと伝わり県内は申すに及ばず、関東近県にまで知れわたりNHKテレビの放映までされて、最近は見物人で会場は立錫の余地がないほどです。

その日を期して今日も若者たちの命がけの稽古が続いています。今年も幸いにも日曜日に当りますので、航空機のばく音がとどろく騒音下にあつて、黙々と営農に励む若者たちの、この日の晴れ姿をみなさんと思ひます。

大宮神社の所在は、中台十字路（中台会館）より約五十メートル程西北の芝山寄りです。